



# 黄と緑

2020年春号 (No. 112 / 4月12日発行)  
ボーイスカウト東京大田第6団  
(東京都大田区田園調布 3-43-1 カトリック田園調布教会内)  
URL <http://www.bst-ohta6.org>

## 新型コロナウイルス対応について

団委員長 木村 高弘

今年は、いつもの年よりずいぶん早く桜の花が咲き、そして散っていきます。

三か月前の1月19日には、皆さんとともに、新年初めの団の集会として『教会餅つき大会』をご一緒させていただきました。その後、団としては2月11日に東京のカトリック団の行事として例年通り東京カテドラルにおいて行われた『ベーデンパウエル祭』に参加し、菊池大司教司式のミサとミニハイク等で交流を深めました。この行事のすぐ後で、クルーズ船だけだった新型コロナウイルスが日本中に感染を広め始め、現在のような大変な事態となりました。この新型コロナウイルスの感染は、桜の花のように「パッと咲いてパッと散る」というようなことはなく、手ごわい相手のようです。

2月の後半からは、『ボーイスカウト日本連盟通達』と、カトリック東京大司教区『新型コロナウイルス感染症に伴う対応』の数度にわたる発表にしたがって、団・隊としての集会活動を休止しています。

当初言われてきたような「年配者には重篤になる割合が多く、若い人や年少者は感染しにくく重体になりにくい」との考えは、年少者の感染・重篤化が現実に出てきて、スカウトたちへの影響をより強く考えなければならない事態となりました。スカウト活動としては各隊隊長が中心となりリーダー全員で、集合しなくてもスカウト個人がそれぞれの過程で、保護者の方のご協力の元、実施できるプログラムを考慮し、展開していきます。団としても十分な活動を行う事が出来ず残念ではありますが、保護者の皆さま、リーダーの方たちのご理解とご協力の元、この難局を乗り切り、より充実したボーイスカウト活動につなげていきたいと考えております。

現在のような対応がいつまで続くのか、予断を許さない状態ですが、日本連盟の通達や社会の動向により随時、隊を通してその時々の方針をお伝えしてまいります。団関係者の皆様においてはどうぞよろしくお願いいたします。

## 教皇フランシスコの来日

副団委員長 岡野 孝

皆さま、ご復活おめでとうございます。

いま、世界は新型コロナウイルスにより大きな試練の中にあり、教会では公開のミサを行っていないため、皆で集まって復活を祝い合うことができませんが、大田6団の皆様とはこの誌面を通して、神の恵みである復活の喜びを分かち合いたいと思います。

### 教皇の来日

昨年11月23日～26日の4日間、教皇フランシスコが訪日されたことは、マスコミでも多く報じられましたのでカトリック信者のみならず多くの方々の記憶に残っていることと思います。教皇は82歳という高齢にも拘らず、前訪問地であるタイから23日夕刻に到着後、実に精力的に各地を訪れ、多くの人々と共にひと時を過ごされました。



#### 2019年11月23日(土) バンコク → 東京

夕刻 バンコクから到着 → 日本司教団との会合(教皇庁大使館)

#### 2019年11月24日(日) 長崎・広島

早朝 核兵器についてのメッセージ(長崎爆心地公園)

→ 殉教者への表敬(西坂公園) → ミサ(長崎県営野球場)

夕刻 平和のための集い(広島平和記念公園)

#### 2019年11月25日(月) 東京

午前 東日本大震災被災者との集い(半蔵門のホテル) → 天皇との会見(皇居)

→ 青年との集い(東京カテドラル)

夕刻 教皇ミサ(東京ドーム)

夜 首相との会談、要人・外交団との集い(首相官邸)

#### 2019年11月26日(火) 東京 → ローマ

早朝 イエズス会員とのミサ(上智大学聖堂)・朝食

午前 病氣・高齢司祭訪問 → 上智大学訪問 → ローマへ

今回の訪日のテーマは「すべてのいのちを守るため」で、上記日程の中で、皇居訪問時を除き、10回のメッセージを残されましたが、それぞれの訪問地での様子はライブで中継されたため、私もその全てをYouTubeで観ることができました。

この「黄と緑」で、教皇が信者や多くの人たちに向かって話されたことの中で、私が特に感銘を受けた点や、メッセージの核心だと思った点を少しだけ記したいと思います。

## 印象深かった祈りの姿

教皇が日本に到着されて最初のライブ映像が流れたのは、長崎の爆心地で献花をされた時です。私はライブが始まると同時にテレビにかじりついて観ていましたが、先ず驚いたのは、花輪を置かれ、それに手を添えて、何と、その後2分近くじっと祈りを捧げられたことでした。これまで、折に触れ多くの政治家や財界人が様々な場で献花を行ったのを見ましたが、このように長く祈った方はいないのではないかと思います。

祈りとは何か、私はこれまでスカウト向けの宗教章プログラムでは、祈りは「神との対話」だと説明してきましたので、一体、この時教皇は何を、どのように神と対話しておられたのか知りたいと思いました。その後、広島でも同じように長い祈りの姿が映し出されたのですが、翌日の青年との集いの中で、人生に役立つことの一つとして話された中に、私なりにその答えを見つけることができたのです。

それは、「いじめ」に関する話の中で、人を軽んじ蔑むとは、上からその人を見下げることで、唯一上から下へ見てよいのは、相手を起き上がらせるために手を貸す時だけだとし、そのように手を差し伸べるためには、他者のために時間を割き、耳を傾け、共感し、理解する能力を向上させることが求められるが、家族や友人のために時間をとるだけではなく、神のためにも、祈りと黙想をもって時間をとる必要があるとして、祈りについて次のように述べられたのです。

「かつて、ある思慮深い霊的指導者が言いました。祈りとは基本的に、ただそこに身を置いているということだと。心を落ち着け、神が入ってくるための時間を作り、神に見つめてもらいなさい。神はきっと、あなたを平和で満たしてくださるでしょう。」

この一言で、私の「祈り」に対する見方が変わりました。時間をとって心に隙間を作り、入ってこられる神に見つめていただく。もうだいぶ前のことになりましたが、大田地区の指導者の集いで、本門寺の野坂団委員長（当時）と祈りについて対談したことがあります。その時には、仏教もカトリックも、祈りについては同じですね、となったのですが、私の今回の発見を、また仏教のお坊さんと語り合ってみたいものです。

## 経済至上主義、利己主義について

この度の来日で、教皇は、訪れたそれぞれの場所で、その場に相応しいメッセージを残されましたが、その根底に一貫して流れていたものがあったと思います。

長崎や広島を訪問されたことから、一般に注目されていたのは核廃絶と平和、また死刑制度の廃止に関することなどでしたが、教皇が様々な場で言葉を変えて語られたのは、それら

を生み出す私たちの日々の生き方や価値観、それを変えましょう、という点にあったと思います。

日々忙しく働く今の私たちの一般的な価値観は競争原理であり、名門校で教育を受けて有能な人間となり、会社では生産性を高め、成功しなければ人生の意味がない、という考え方にこそ、紛争を生み出す種が潜んでいることに気づいてほしい、というものです。

このことは到着後、先ず行われた司教団との会合で、「『成功した』人だけでなくだれにでも幸福で充実した生活の可能性を差し出せる文化になるよう努めてください。」と語っておられますし、その後、広島でも「自分だけの利益を求めため、他者に何かを強いることが正当化されてよいはずがありません。」と話されています。

さらに、東京ドームのミサでは、次のように話されました。

「日本は、経済的には高度に発展した社会ですが、今朝の青年との集いで、社会的に孤立している人、いのちの意味が分からず、自分の存在の意味を見いだせず、社会の隅にいる人が、決して少なくないことに気付かされました。家庭、学校、共同体は、一人の人が誰かを支え、助ける場であるべきなのに、利益と効率を追い求める過剰な競争によって、ますます損なわれています。多くの人が当惑し不安を感じています。過剰な要求や、平和と安定を奪う数々の不安によって打ちのめされているのです。」

続いて、当日の朗読箇所に触れ、「何としてでも成功を、しかも命をかけてまで成功することにとらわれ、孤立してしまわないように。この世での己の利益や利潤のみを追い求める世俗の姿勢と、個人の幸せを主張する利己主義は、実に巧妙にわたしたちを不幸にし、奴隷にします。その上、真に調和のある人間的な社会の発展を阻むのです。」と話されました。

また、首相官邸で行われた集いでも、「結局のところ、各国、各民族の文明というものは、その経済力によってではなく、困窮する人にどれだけ心を砕いているか、そして、いのちを生み、守る力があるかによって測られるものなのです。」と語っておられます。

## 若者へのことば

若者を対象とした場が2回ありました。その中で教皇は、希望のない世界だというなら、それをもってくるのは若者の責任だということ、世界は若者を必要としているから、自ら一歩踏み出して動かなければいけない、そして、若者たちは貧しい人たちのことを忘れないでください、人間は他者のために生きるなのであって、若者もかわいいお坊ちゃん、お嬢ちゃんであればいいということではないのです、と述べられました。

特に私の印象に残ったのは、次のことばです

青年との集いで：「人類にとって大切なのは、皆が同じようになることではなく、異なる経験や見方を尊重することです。学校でのいじめでは、いじめる側こそ本当は弱虫です。皆で

力を合わせて言う必要があります。恐れは常に善の敵です。イエスは『恐れることはない』と言われました。神への愛、兄弟姉妹への愛は恐れを締め出すからです。」

上智大学で：「大学で準備された教育の単なる受け手でなく、若者も一翼を担い未来の展望や希望を分かち合わねばなりません。みなさんは公正、人間的、正直で責任をもつことを心がけ、弱者を守る人になって下さい。偽りの欺瞞の時代にあって特に必要とされる誠実な人になって下さい。貧しい人たちのことを忘れてはいけません。助けを求める人のために祈ることを忘れずにいてください。」

## 未来に向けて悪に打ち勝つ力を

離日直前の、イエズス会士たちとの私的な会合の席の様子を、上智大学カトリックセンター長で、上智ローバース千代田 11 団の団委員長でもあるホアン・アイダル神父が、次のように述べています。

「教皇は、未来について、理想ばかりを見ようとする人と、毎日希望をもって歩む人とを比較して話していました。毎日希望に満ちた生き方をするのはよくて、他方、理想ばかりを語る人は、とかく悪い面しか見ていない。また、過去にこだわり、とどまるのは悪い見方で、過去へのよい見方は、たとえば、イエスがどれほど赦してきたかに思いをさせ、そこから未来を見ることだと。リアリストである教皇は、現実から離れれば主義イデオロギーになるとの考えだった。」

## メッセージの核心

教皇の来日中の数々のメッセージの核心を一言に集約することはできませんが、ポイントは、現在の私たちの社会の価値観、特に日本の場合、経済優先主義といったものではなく、そこから一步踏み出した、他者とのかかわりを大切にする価値観こそが、私たちの真の幸福を生み出すものであること、また、時間をとり立ち止まって考え、貧しい人々や社会的な弱者に寄り添い、その人たちとともに歩みを進めることで、真に平和な世界が実現する、ということではないかと思います。これは B-P のラストメッセージとも相通ずるものです。

そして、長崎でも広島でも、また東京でも教皇が発言しておられたのは、長崎や広島で悪がもたらした痛みを見ることができるといえる一方で、何よりも善の力、真理の力の強さを見ることができるといえる点です。社会には悲観的な考えを持つ人がいますが、教皇は祈りを通した善の力によって社会を変え、希望に満ちた世の中を作ることが私たちには可能だと、いうことを何度も繰り返し強調しておられました。

コロナウィルス禍にあって、いま、私たちは忙しい日常を離れて静かに佇むことを強いられています。この時こそ、教皇来日時のメッセージを読み返す絶好の時と思いました。そして、ただ読むだけではなく、そこで頂いた私たちへの宿題に、今後どのように対峙していくべきか、仲間とともに考え、実行していきたいと思っています。



関心がおありの方は、ほぼすべてのメッセージをカトリック中央協議会のホームページで読むことが可能ですので、検索をかけて、どうぞご覧になって下さい。



\* \* \*

〔お餅つき — 1月19日〕



## ビーバースカウトは負けないぞ

ビーバー隊 田中孝雄

ビーバー隊のスカウト諸君、元気ですか？

2月は、大田区こども交歓会や毎年恒例のBP祭で多くのスカウトと集まることができましたね。

大田区こども交歓会では、パラリンピック競技に挑戦しました。自分の持てる力を最大限に発揮して競技をやり終えた充実感を十分に感じてもらえたことと思います。

また、BP祭では、BPがどんな人で、僕たちスカウトに何を伝えたかったのか、少しわかってもらえたことと思います。

ミサの後、関口教会の周りを写真と地図をたよりに謎解きハイキングをしました。知らない街を歩くっていろいろな発見が出来て面白かったですね。来年のBP祭にはビーバー隊のスカウト諸君はカブスカウトに進級しています。大きく成長したスカウト諸君のカブスカウトの制服姿を見るのが今から楽しみです。

こうして、2月は楽しく過ごせましたが、3月は「新型コロナウイルス」の流行という残念な状況になり、スカウト活動が出来なくなりました。また、学校もお休みになり、スカウト諸君はスカウトのお友達や学校のお友達とも会えなくなり寂しさを感じているのではないかと心配しています。

春のあたたかな日差しの中、満開の桜が散りはじめののを見るとのどかさを感じます。

「新型コロナウイルス」の流行なんて忘れてしまいそうです。

しかし、スカウト活動や学校のお休みという状況はまだしばらく続きそうです。

残念ですね。

でも、こんな時こそ、ビーバースカウトは、ビーバー隊のきまりを思い出してもらいたいと思います。

ビーバースカウトはげんきにあそびます。

ビーバースカウトはものをたいせつにします。

ビーバースカウトはよいことをします。

お友達とあえなくても笑顔で元気にあそんでください。ものをたいせつにしてください。

そして、この機会に「よいことをする」とはどういうことか考えてみてください。

もう少し我慢しましょう。きっとみんな楽しく笑って集まれる日が来ます。

それまで、「ぼくはスカウトだから退屈や、寂しさには負けないぞ」と、笑顔ですごしてください。

スカウト諸君の元気な声と笑顔に会える日を楽しみに待っています。

## 2020 年度 パインウッドダービー

カブ隊 隊長 村上 芳道

前回の「黄と緑」原稿執筆から3カ月、この間に世界は一変してしまいました。皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染防止のため、忍耐を強いられる日々をお過ごしのことかとお察しいたします。大田6団は、ボーイスカウト日本連盟コミッショナーからの「新型コロナウイルス感染への対応について」第1報(2/21)～第5報(4/3)に従い、大変心苦しい限りですが、2/25から活動の自粛を継続しています。一日も早く、通常の生活が戻ることを切に願っています。活動再開が決まりましたら、カブ隊の残りの年間スケジュール活動内容を大幅に見直し、自粛期間に行いたかったプログラムをできるだけリカバリーしたいと思います。

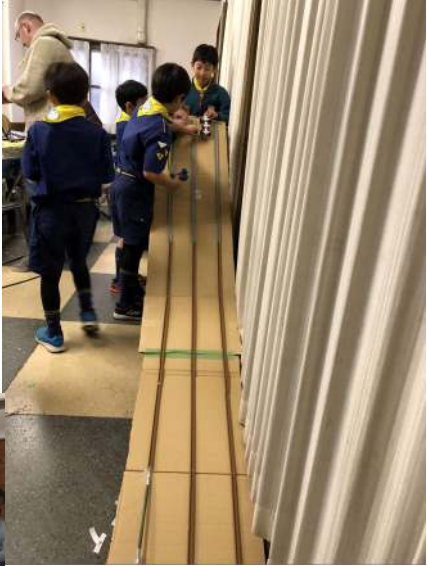
今回の「黄と緑」では、1/19・1/26に行ったパインウッドカー製作と、2/2のパインウッドダービーつばさ地区予選について紹介します。パインウッドダービー活動を大田6団カブ隊プログラムに取り入れてから早や4年目、その間の試行錯誤により、ノウハウをいろいろ蓄積してきました。一番の課題であった、「のこぎり・彫刻刀・ノミ等の工具使用による怪我」ですが、① 工具ごとにデンリーダー・有志保護者・デンコーチによる作業見守り、② のこぎりは片刃の細かい目・刃渡り短めの使いやすいタイプを取り揃え、③ スカウト各人にハンディタイプの固定器具を渡して作業の安定化、を図ることで今年は大きな怪我なくパインウッドカーを作り上げることができました。これら以外にも、④ 最初の工程「パインウッドカー完成図の三面図書き(特にうさぎスカウトは難)」でテンプレート紙を準備、⑤ パインウッドカーに付けるおもりの適した位置・車軸の取り付け方の指示化、⑥ 完成車の持ち運び用箱の準備、といった改善により、大田6団のつばさ地区予選突破スカウト数が激増するのでは?と淡い期待を抱かせるパインウッドカー製作活動ができました。スカウト達は、各人 創意工夫したマシンを作り上げてくれたかと思えます。

迎えたパインウッドダービーつばさ地区予選本番当日、落とし穴が待っていました。車検にて「磁石をおもりに使っちゃダメ～、計器に影響するから」と言われ、急遽 数台のマシンの大改造を余儀なくされました。確かに、今年はずばさ地区事務局からパインウッドダービーのレギュレーションが大田6団に届いておらず(事務局のミス)、当団からも問い合わせをしていませんでした(例年通りとの思い込みと慢心のため)、反省です。

つばさ地区予選会の結果は、大田6団善戦するも、東京大会本選出場は米村くん(つばさ地区くま部門2位)と大日方くん(同5位)の2名が入賞しました。更に特筆すべきことは、BS隊の山田くんがアンリミテッド部門で参戦し、かつ、つばさ地区予選会でレース実況を盛り上げるMC役を担ってくれたことです。他団のカブスカウトが多くいる人前で、MC役はなかなかできることではありません(過去、MC役はベンチャー隊以上のスカウトが担い、ボーイ隊からは初)。前半は慣れないながらも、後半はカブスカウト達との会話をやりとりするまでになり、カブ隊の素晴らしい模範になってくれました。当団スカウト達は、身近な先輩を茶化しつつも、憧れのまなざしを向けていたように見えました。

大田6団は、来年もパインウッドダービーに参戦するとともに、当団からMC役として奉仕立候補するスカウト(ボーイ隊上進者含む)が出てきてくれることを期待します。





# Boy Scout Press

## 2020年春

三指

2020年1月から2月までの活動を御報告いたします。

2020年 1月 11日 ~ 13日 大田6団 スキーキャンプ@菅平高原スキー場  
ボーイ隊 スカウト7名 が参加しました。例年より雪が少なく、一部コースが滑走禁止の状況でしたが、予定通り講習・検定試験を終え、無事終了となりました。

ボーイ隊では技能章課目に「スキー章」がありますので、参加者全員取得できるように頑張りましょう。

1月19日 団行事 お餅つき

1月26日 休み

2月 2日 班集会 救急

進級課目 2級章と1級章の「救急」に関する項目を行いました。

鼻血ややけど、指の切り傷など日常遭遇しやすい事案での応急処置や対応、三角巾の使い方、止血法と毛布と竹を使った急造担架の作り方を学び、実演しました。

2月11日 JCCS 主催 BP 祭@東京カテドラル聖マリア大聖堂・カトリック関口教会  
JCCS 東京支部のカトリックボーイスカウトが一堂に集まるBP祭（ボーイスカウトの創設者であるベーデンパウエル卿のお誕生日を祝う会）に参加しました。合同御ミサのあと、参加団による教会付近を散策するミニハイクに参加し、公園の草花や木々から、もうすぐ来る春の気配を感じました。



(ミニハイクを終えて)

2月16日 班集会 読図

3月8日に行う大田・品川合同隊とのハイキングに向けて、ハイキングに必要な技能である「地図とコンパスをつかった進路発見」として、16方位、地図の種類、座標読みによる地図の読み方、進路の探し方、クロスベアリングなどを学び、地図上での模擬ハイキングを行いました。どれも「よきハイカー」になるための必要な技能となります。

2月23日 お休み

3月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、集会活動が中止及び延期となっております。

今後もボーイ隊の活動にご理解とご協力をお願い致します。

弥栄  
隊長 藤本 利一

\* ご質問やご要望などございましたら、どのようなことでも構いませんので、藤本までご連絡ください。

\* \* \*

[BP祭 — 2月11日、東京カテドラルにて]



## 「黄と緑」へご投稿のお誘い

「黄と緑」は大田第6団の機関誌として年に4回発行しています。各隊隊長による活動報告が中心になっていますが、ボーイスカウト活動に関心のある保護者やOBの方の投稿も大歓迎です。日頃の集会に対する感想、ボーイスカウト活動への思いなどをお寄せいただければ幸いです。



## 世界のスカウトー日本連盟ー東京連盟ーJCCS

《今後の予定》～ 本紙発行時点での予定です。

今後、新型コロナウイルス感染の収束状況その他の事情により変更される可能性があります。

8月20日～23日 70周年記念 団キャンプ [みずがき山グリーンロッジ]  
9月6日 入団、上進式 [田園調布教会]

---

### 《編集後記》

主のご復活おめでとうございます。

昨年11月に来日された教皇フランシスコの日本でのお話しのポイントを岡野副団委員長に紹介していただきました。

新型コロナウイルスによる感染拡大を防ぐため集会活動を休止しており、スカウト同士あるいはリーダーとスカウトが顔を合わせての活動ができない、という状況の下でも一つの仲間として繋がっているという想いで「黄と緑」を予定通り発行することにしました。ただし今回はいつもの紙ではなく、PDFでの発行とし、各隊隊長経由での配信をお願いしています。

私自身も感染しやすい基礎疾患を抱えていますので「密閉、密集、密接」を避けて極力在宅で過ごしておりますが、リーダーはじめ関係の皆さまには感染防止に細心の注意を払われますよう、そして一日も早くこの事態が終息することをお祈りいたします。

「黄と緑」の次号は7月19日、キャンプ説明会の日に発行の予定です。(谷岡 記)

(表紙題字：石原 一、タイトルの「黄」は教会を、「緑」は平和を表しています)